

## 中学生の「税についての作文」

大川税務署長賞

### 「コロナと税金、そして『幸せ』」

大川市立大川桐薫中学校

三年 前 田 結 衣

第七波。今、まさにその最中だ。このコロナは収束する気が全くない。それどころか、第何波と数が大きくなるにつれて、感染者が増加しており、だんだんと自分に迫ってきているようにさえ感じる。

先日、私に、三回目のワクチン接種の通知書が届いた。

「どうする。行くね。」

と母が聞いてきた。しかし、私は、

「行かん。」

と答えた。理由は二つ。副反応が怖いことと、お金がかかるから。そう思ったところでふと気が付いた。

「そういえば、ワクチン接種の時、お金って払ったかな。」

そう。払っていない。なぜ、お金を払っていなかったのか、気になって調べてみると、「税金」が使われていることがわかった。

コロナのワクチン自体の費用は、全額国の税金で負担されているそうだ。ワクチンそのものだけでなく、その会場のエアコン代、パーティション代などの費用。それから、職員のお給料、ワクチン保管用の超低温冷蔵庫まで、全てにおいて

税金が使われていることを知った。

そこから私は思った。普段、私達が納めている税金によって多くの人の不安を少しでも取り除けているのではないかと。もちろん自分自身で、できる限りの感染対策をすることは

必要だ。しかし、それプラスワクチン接種によってコロナ感染に対する精神的不安を和らげたり、副反応を軽減できたりできる。

そんなメリットのあるワクチン接種ができるのも、国が全額「税金」で負担してくれるからだ。また、元をたどれば、そのお金は、自分で納めているものなのだ。つまり、この日本に、「納税」という制度があるからこそ、こうして安心していられるのだ。

私が今行っている「納税」は「消費税」の一つだけだ。社会人になったらその種類が増えることも、もちろん知っている。税の使い道を知るまでは、税に対してどうしてもマイナスイメージがあり、消費税率引き上げに対しても抵抗があった。消費税なんていらん！と思ったこともあった。しかし、今はそう思わない。

私は、このコロナ禍の「ワクチン接種」というものによって、新たに「税金」の大切さと必要性を知った。こんな状況だからこそ知れたと思う。

今の消費税率は10%。私が納めた10%で、私が幸せになることができる。そのような「お返し」が待っているのが「納税」であり、「税金」であると思う。

私は「税金」があることに感謝し、これからも消費税を払っていききたいし、社会人になっても納税を続けていきたい。

そして、「幸せ」な生活を送っていききたい。